□椿　啓介・三浦宏一郎・山本昌木（訳）：**ウェブスター菌類概論**（Webster, J.: Introduction to fungi, 2nd ed. 1980, Cambridge Univ. Press）649 pp. 1985. 講談社，東京．¥12,000. いわゆるキノコとかカビに関する一般向きの解説書や図鑑類はわが国でもいくつか出版されているが，菌類全般について学術的に論述された教科書はまだ日本ではない。菌学全般についてのことを学ぼうとすると，どうしても外国で出版された原著を探すより他に方法がなかったが，今回出版された上記のものは，イギリスで出版されたものの翻訳ではあっても，こうした我々の渇望を満たしてくれるものである。本書は第I部変形菌門，第II部真菌門からなっていて，第II部は鞭毛菌亜門，接合菌亜門，子嚢菌亜門，担子菌亜門，不完全菌亜門に分類し，各々の亜門のくわしい解説がなされている（主要な目，科，属にまで及んでいる）。図や写真も豊富で，末尾に1818編の主要文献がかかげられている。地衣類も *Cladonia* とか *Peltigera, Xanthoria* などが Lecanorales の中で解説されているが，菌類の中における地衣類の特殊性などについてのつっこんだ論議はない。本書はヨーロッパの読者を対象に書かれているとはいえ，菌類の世界全般と菌学上の概念を学ぶためには極めて好都合な教科書といえる。

（井上　浩）

□北村四郎：**本草の植物**（北村四郎選集II）638 pp. 1985. 保育社，大阪．¥7,800 副題は「漢名と和名，学名との同定」。中国の古典「斉民要術」「酉陽雑俎」「飲膳正要」もあるが，圧巻は「本草綱目」で，これらの植物を同定したもの。林道春以来，日本の本草学は中国本草の実体を明らかにするのに骨身をけずった。今，北村博士によって最新の解釈が与えられた。植物の学名，和名，漢名の索引が便利である。（木村陽二郎）

□中村武久（編）：**ボナペ島―その自然と植物**　222 pp. 1985. 第一法規出版，東京．¥9,000. ポナペ島は昔南洋群島と呼ばれていたミクロネシアの一孤島で，北緯7°，東経158°にある。円い形の小さい（といっても九州の屋久島くらいある）島で，周りに珊瑚礁を囲らせ，中央に 800 m 近い山岳が並び，川も四方に流れ滝も多い。1972年から83年まで5回にわたって，日本植物園協会から派遣された海外植物調査収集隊の延30名80日間の調査研究（報告書はその都度出ている）の結果を，中村氏ほか11氏が執筆したものである。内容は次の4部から成る。第1部 太平洋に浮かぶ緑の島，これは島の自然環境などの紹介。第2部 ポナペ島の植物，これが本書の主力で，海岸・人里・山地の植物，ヤシ類・タコノキ類・シダ植物・栽培植物などの詳しい説明。第3部 緑の島の自然と人々は同島の遺跡・民俗・薬草・動物など。第4部 ポナペ島植物研究資料，これは同島の研究史と高等植物の目録。B5判各ページ数枚ずつ入っている大小のカラー写真は実に好い出来で，熱帯植物の原色図鑑として役立ち，ページをめくるごとに熱帯の美しさと楽しさがあふれ出て来る感じの印刷である。植物の専門家はもちろん，植物好きの人に見せたい本である。（伊藤　洋）